



カンボジア王国 Kingdom of Cambodia



たばこ産業の特徴

1. カンボジアは独立した市場ではなく、トータルとしてインドシア市場の一部である。
2. たばこの市場規模は年間88数億本。その内25%が手巻きたばこである。
3. 主力メーカーはBAT Cambodia(BATC)で、シェアは43%。プレミアム・セグメントで強い。
4. 輸入シガレットの多くはベトナムやタイへ密輸の形で再輸出されている
5. カンボジアのシガレット市場は、喫煙者率の高さ（男性で66.7%）、広告規制がほとんど無いことから、たばこメーカーのパラダイスであると言われている。
6. カンボジアのシガレットの価格は世界でも一番安い。
税金が安いこと、ベトナムやタイ市場に近いことが利点である。

[1] 法規制等

健康注意表示:

包か、広告への健康注意表示が必要。

広告規制:

公共放送、ビルボード、印刷メディアの規制あり。

販売規制:

未成年者への販売は規制されていない。

喫煙場所規制:

公共輸送機関、職場、レストランは部分的に禁煙。その他公共の場所は規制。

販売促進活動:

規制無し。

(規制の動向)

マーケティングや販売促進では多少の制約があるが、BATCは2002年4月に店頭広告を除き、ビルボード広告などを自主的に撤去した。2003年にはビルボードの広告規制が始まり、政府は規制を強めて行くものと思われる。

[2] 税制

販売税	10%
輸入関税	7～35%
特別税	10%
公共照明税	3%

税金はインドシナ地域では一番安い。政府の歳入の20%～30%はシガレットから得ている。

[3] 喫煙者プロフィール

喫煙者率（15歳以上、1999年）

男性	66.70%
女性	10.00%
平均喫煙率	35.00%

一人当たりの年間喫煙本数は 769本

[4] 市場概況

- 市場自由化、経済・政治的不安定により、比較的小さなシガレット市場が大きく変化している。2001年にシガレットの輸入関税を110%から35%に、原産国によっては7%にまで劇的に減税した。シガレットの製造販売は1998年で国の歳入の18%を占め、650万USドルの税収を得ている。
- カンボジアのたばこ事業は5,000万ドル、5万人の雇用を生み出しており、GDPの2%を占めている。カンボジア政府はたばこ産業を前向きに援助している。
- 2000年のシガレット消費本数は88億本で、そのうち手巻きたばこが約25%を占めている。消費本数のうち75%が低価格帯製品である。工場製シガレットの消費を犠牲にして、手巻き製品が伸びている。過去10年間一人当たりのシガレット消費本数は比較的安定している。国際ブランドの成長は限定的である。
- カンボジアは手巻きたばこには良い市場である。カンボンチャム省には42の業者が国産葉を使って手巻きたばこを製造している。偽造ブランド製品もあるが、品質は極めて悪い。

- カンボジアにはBAT Cambodia(BATC)の他に10社のたばこ企業がある。BATCの強みはプレミアム・セグメントであり、プレミアム・セグメントではState Express 555は78%のシェアを占めている。
- 過去6年間の間に多国籍企業が市場参入している。BATは2,500万USドル以上の投資の他に、植林プログラムにも基金を出している。
- BAT、PMI、JTI、Altadis、Reemtsmaなど国際企業がプレミアムと中級価格帯で活動している。市場リーダーはBAT Cambodia (BATC) で、シェア43%を占めている。ローカル・ブランドのARA、Victory、Liberationと国際ブランドのState Express 555、DunhillのポートフォリオでBATCは非常に成功している。Vinton社（中国との合併会社）はバリュー・ブランド“Crown”で第2位。次いでAltadis社は“Alain”、“Delon”、“Fine”ブランドである。外国ブランドのシェアは約6%であるが、増加する傾向にある。輸入シガレットの80%近くがベトナムやタイへ密輸出されている。

シガレット製造数量（単位100万本）

年 度	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
製造数量	4,300	4,300	4,300	4,300	4,300

[5] 製品プロフィール

国産ブランドは1包かが10USセント以下。輸入のプレミアム・ブランドは1USドル。ローカルのリーディング・ブランドは“Ara”、その他に“Victory”、“Liberation”（以上BAT）、バリューブランドの“Crown”（Vinton社）、“Alain”、“Delon”、“Fine”（以上Altadis社）がプレミアム市場での順位は、PMの“Marlboro”、BATの“State Express 555”、JTの“Mild Seven”。

平均販売価格（20本当たり）

国産製品	0.41USドル
外国製品	1.03USドル

（出典 ERC, 2001）

[6] 企業概要

カンボジアに投資している多国籍企業はBAT、PMI、JTI、Altadis、Reemtsma。プレミアムと中級価格帯で活動している。

市場リーダーはBAT Cambodia(BATC)でシェアは43%。第2位はVinton社、次いでAltadis社である。

市場のリーダーはBATCでシェアは43%、Vinton（中国との合併企業）が25%、JTIが1~2%、Reemtsma（Paradiseとの合併企業）が0.2%、残りローカル・ブランドが5%である。

British American Tobacco Cambodia (BATC) :

BATCはカンボジア最大のシガレット製造会社でシェアは43%。同社は1950年代にカンボジアで事業を開始した。

しかしクメール・ルージュが勢力を増したために撤退した。

その後1996年6月に、BATとカンボジアの事業家Kong Triv氏、シンガポールの流通マーケティング会社Singapore United Tobacco Ltd.(SUTL)が合併でBAT Cambodiaを設立した。

BATが51%、事業家のOknha Kong Triv氏が29%を保有し、残りはSUTLが所有している。

BATCは元国営のCambodian Tobacco Co.の工場に1,600万ドルを投じて、機械設備の拡張・近代化を行っている。

2工場を持ち、ローカルブランドの“ARA”、“Victory”、“Liberation”と、国際ブランドの“State Express 555”、“Dunhill”のポートフォリオで非常に成功している。

年間60億本製造。“State Express 555”をアンダーライセンス製造し、東南アジア向けに輸出している。

1999年には原料加工部門に1,250万ドルを投じて処理能力を拡張した。

BATCの工場には7000回転のモリンスのM8、ハウニのProtosがある。

製造ラインには125回転のAMF包装機、370回転のGDx1がある。従業員は472名おり、その内288名は工場働いている。

年間40億本以上の製造能力を持つが、現在20億本を製造している。

BATCは赤字が続いているが、近い将来黒字になることを期待している。

BATCの農業部門への投資により、たばこ耕作者の所得は3倍になり、収量は300%増加した。

更に雇用機会が増えて、労働者からは感謝されている。350軒の農家と葉たばこを契約栽培させている。

約400軒の葉たばこ農家を訓練し、高品質の種子を提供している。

カンボジアは葉たばこ生産国として有望であると同社は語っている。

その他メーカー :

BATCの他に10社のたばこ企業がある。

これらの企業のあるものはオーストラリア、シンガポールと、2社は中国と、1社はフランスと財務的にリンクしている。

これらの資本の合計は4,280万ドルである。

メーカー別市場シェア（2001年、出典 ERC）

BAT Cambodia	43%
Paradise Tobacco Co.	1%
その他国内企業	6%
輸入製品	50%

[7] 葉たばこ概況

栽培葉たばこは黄色種である。年間収穫量は約5,000トン。

BAT Cambodiaは、葉たばこの生産量を増やすために農民の訓練を行っている。

Malaysian Tobacco社はBAT Cambodiaのコンサルタントとして、新しい葉たばこ耕作技術の指導を行っている。

無料で種子を与え、助言をし、ヘクタール当たりの収量は、1,200Kgから1,500Kgに増加した。

カンボジアの大規模農家は5ヘクタール、小規模農家は1.5ヘクタールを耕作している。

葉たばこ栽培期間は6ヶ月で、残りはトウモロコシを作っている。

[8] 展望

1990年以来1997年までに販売数量は38%も増加した。現在の市場規模は88億本で、ある程度の成長は見込める。

カンボジアの宣伝広告の規制は比較的緩やかであるが、2003年にはビルボードの広告規制が始まり、政府は規制を強めて行くものと思われる。

カンボジアはインドシアン半島の戦略的位置を占めていることから考えると、サブ地域の輸入税や関税を下げるにより、カンボジアはタイやベトナム近隣諸国に必須の役割を果たすかもしれない。

BATCIは、経済の向上に伴い喫煙者はプレミアム・セグメントへ向かうと考えているが、BATCIは低価格セグメントへの参入を選択するかもしれない。

しかしこのセグメントでの利益は投資に見合うだけのものは得られないが、市場拡大の余地はある。